

高校生ICT Conference

高校生ICT Conferenceについて

主催

高校生ICTカンファレンス実行委員会

(構成団体)

一般社団法人安心ネットづくり促進協議会

大阪私学教育情報化研究会

一般財団法人草の根サイバーセキュリティ推進協議会

共催

こども家庭庁、警察庁、消費者庁、デジタル庁、総務省、文部科学省、経済産業省

高校生ICT Conferenceが目指すもの

高校生ICT Conferenceは、次世代の社会を支える高校生が、自ら考え、他者の意見を聴き、議論し、意見をまとめ、発表することにより、将来のインターネット社会に臨む環境整備の一助になることを目指す。

啓発活動における課題

- セミナーやシンポジウム形式に対する理解度・興味の薄れ
- 保護者層の参加率の低さ
- 自己責任に対する意識の希薄



- ネットが分からず対応できない保護者
- 操作能力が高く、安易にネットを利用する高校生
- 知識・経験が不足してトラブルに巻き込まれる小・中学生

大人からのおしつけでなく当事者の高校生が考える

負のスパイラルから正のスパイラルへ

「高校生ICT Conference」が持つ3つの意味

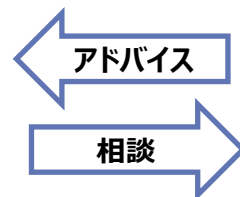
- 当事者である高校生自身の気づき
- 年少の子どもに行動できる高校生の育成
- 次世代の保護者の育成



- リテラシーに加え、情報モラルを獲得した高校生
- 身の回りに小・中学生のよき相談相手
- リテラシーを持って子どものネット利用に目を配ることができる保護者



小・中学生

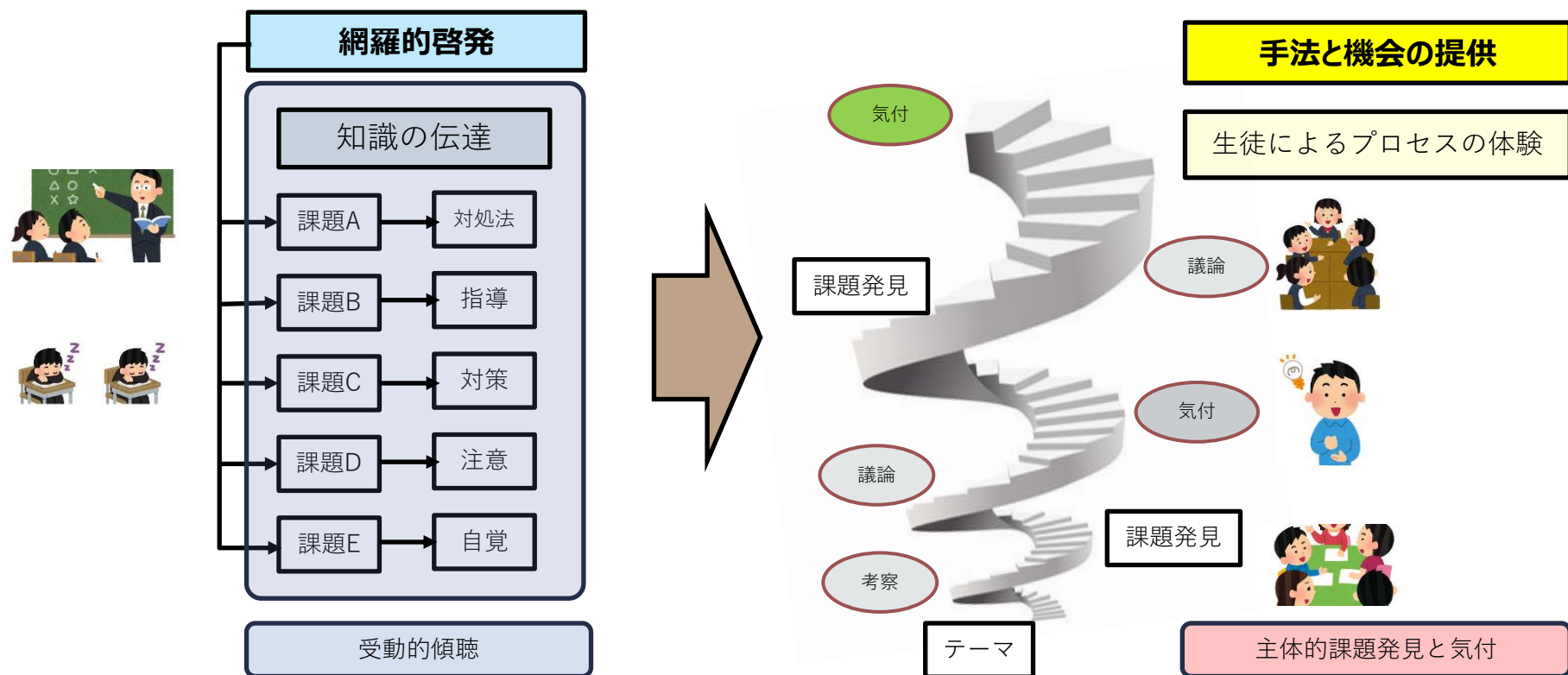


高校生



大人

ICTの活用というテーマについて「考える機会」提供し「気づき」を体験することで、課題について主体的に理解を深める手法と習慣を得ることをめざす



高校生ICT Conference開催概要

テーマ

- 2011年度 「ケータイ・インターネットの在り方 & 活用法」
- 2012年度 「スマートフォン時代の情報モラルと利活用」
- 2013年度 「考えてみよう！情報モラル・情報リテラシー教育の5W1H」
- 2014年度 「考えよう！これからのスマートなネットの使い方・あり方」
- 2015年度 「言いたい！イマドキのネットのルール&マナー！！～高校生のボクたちだから～」
- 2016年度 「ネットトラブル！どうする？【予防】と【対策】～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～」
- 2017年度 「高校生が考える心豊かな生活 ～ICT×（家族・学校・地域）～」
- 2018年度 「社会で活躍するためのICT活用法 ～18才成人化を控えて～」
- 2019年度 「人はなぜSNSを使うのか？ ～改めて考えるSNSの使い方～」
- 2020年度 「新しい生活様式とICT活用法」～行動制限の時代に生きる～
- 2021年度 「フェイクを見極める」
- 2022年度 「デジタル社会における学び方と学びの場 -オンライン環境で「出来ること」「すべきこと」」

開催日程例

- **各地域開催（7月～10月）**

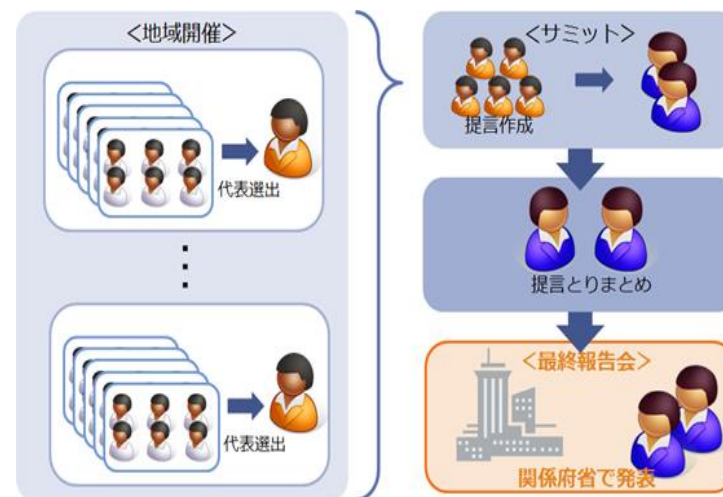
各地でワークショップ（議論を重ねる熟議方式）形式の議論を実施し、地域代表1名を選出。

- **サミット(11月3日)**

各地での議論をもとに、高校生が政府への提言をまとめるための討議を実施し、最終報告をする代表者を選出。

- **最終報告会(12月19日)**

共催省庁に高校生からの提言を公表、意見交換。



2023年度テーマ

今、高校生が考えるデジタルシティズンシップとは ーデジタルウェルビーイングな社会を目指してー

新型コロナウイルスで揺れ動いた社会は、ようやく各種の行動制限はなくなりましたが、未だ感染リスクは存在するため、本来密であるはずの高校生の生活環境においても、人と人が直に接するリスクを未だ抱えている状況です。

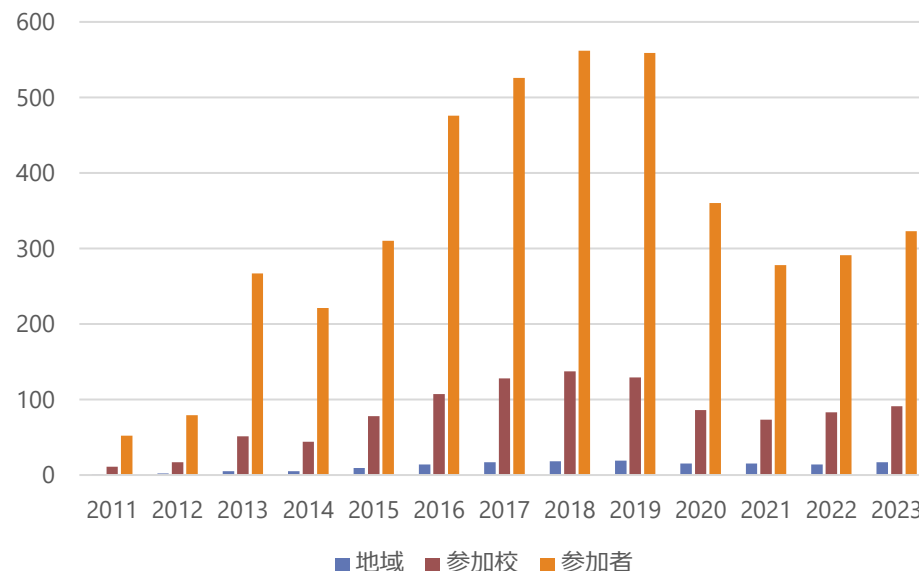
一方、高校生のICT利用環境に目を向けると、スマホに加え、一人一台学習端末の導入（いわゆるGIGAスクール構想）により、機能のすぐれたタブレットやパソコンの個人専有が普及しました。さらに自然言語による生成AI技術等の目覚ましい進歩と実用化に向けた取組により、多様なシーンでAI技術が利用されるようになりました。こうした社会環境の変化や情報技術の進歩を背景としたデジタル社会を迎え、今後、益々利用者自身の情報リテラシーや情報モラルが求められるようになってきています。

ICTの健全な利用により利用者のデジタルウェルビーイングな状況を維持する社会環境の構築に向けた取り組みは我が国が目指しているところであり、それを支えるのが利用者の情報技術を利用する上での行動規範であるデジタルシティズンシップです。これから迎えるデジタル社会においてその中核をなすであろう現在の高校生が、現在そして将来果たすべき役割とは何か。多様なICT機器やサービス、新たに開発される技術の活用において、ICT利用の最先端を走る高校生が、自身の役割について、斬新な指針とその実現方法を議論し、提言する。

ICT Conference2023 開催地別参加人数

開催日	地域	参加校	参加人数
2023年7月29日	大分	13	41
2023年8月7日	第1回全国オンライン	4	9
2023年8月17日	新潟	11	25
2023年8月19日	長崎	4	11
2023年8月23日	茨城	6	20
2023年9月2日	福岡	3	6
2023年9月9日	兵庫	8	39
2023年9月10日	高知	3	16
2023年9月17日	大阪	6	26
2023年9月18日	石川	3	14
2023年9月18日	静岡	6	25
2023年9月24日	愛知	4	14
2023年10月1日	札幌★	3	12
2023年10月1日	帯広	3	5
2023年10月1日	東京	4	22
2023年10月8日	第2回全国オンライン	4	9
2023年10月14日	長野	6	29
		91	323

参加校と参加者の推移



	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
地域	1	2	5	5	9	14	17	18	19	15	15	14	17
参加校	11	17	51	44	78	107	128	137	129	86	73	83	91
参加者	52	79	267	221	310	476	526	562	559	360	278	291	323

★札幌開催は9/16に前半部分、10/1に熟議・発表を実施した

2023年度の開催まとめ

1、開催地域の増加（対前年3開催増加 14⇒17）

- ・新規開催地域：兵庫、愛知（再立上）、第2回全国オンライン

2、概況

新型コロナの5類への移行で、開催地域、参加者とも2年連続で増加した

3、開催方法と運営

（1）リアル開催

札幌、帯広、茨城、東京、静岡、愛知、石川、大阪、兵庫、高知、福岡、大分

（2）ハイブリッド開催

新潟

（3）オンライン開催

長野、長崎、第1回全国オンライン、第2回全国オンライン

4、まとめ

- ・新型コロナの5類への移行に伴い、多くの開催でリアル開催の選択となった
- ・新規および再立上の地域においては、事務局の熱意がとて高かった
- ・デジタル庁が共催に加わった

地域開催状況 (写真)



札幌開催



愛知開催



兵庫開催



新潟開催



大分開催



石川開催

全国

11/3 (祝) サミット

日時： 2023年11月 3日 (祝) 12:30～17:10
 会場： 情報セキュリティ大学院大学東京オフィス
 (東京都千代田区丸の内三丁目3番1号)

市立札幌旭丘高等学校
北海道帯広柏葉高等学校
江戸川学園取手高等学校
新潟県立長岡大手高等学校
石川県立金沢錦丘高等学校
長野県松本県ヶ丘高等学校
静岡県立島田商業高等学校
愛知みずほ大学瑞穂高等学校
関西創価高等学校
兵庫県立姫路東高等学校
高知県立佐川高等学校
福岡県立筑前高等学校
長崎県立壱岐高等学校
大分県立大分舞鶴高等学校
福井県立敦賀高等学校
早稲田摂陵高等学校

○会場参加者	61名
・代表生徒	16名
・引率教員	15名
・ご挨拶	7名
・司会	1名
・ファシリテーター	6名
・地域事務局代表他	10名
・協賛社	2名
・事務局	6名

2023年度サミットの模様



「高校生ICT Conference 2023」の成果を提言として代表者2名が関係省庁に報告

1、日程

12月19日（火）

2、スケジュール

- 1) 文部科学省 (11:00~12:00)
- 2) こども家庭庁 (14:00~16:00)
- 3) 総務省 (16:15~17:15)

3、参加者

- 1) 文部科学省 : 省内関係者
- 2) こども家庭庁
「青少年インターネット環境の整備等に係る検討会」
発表生徒、米田実行委員長
- 3) 総務省 : 省内関係者

2024年度展開案

- コンセプト

ICTの利活用を通じて主体的な課題解決をはかる

- 展開方法

生成AIの急速な進歩で、文書にとどまらず、画像や動画生成がだれでも簡単に出来るようになった。高校生として生成AIをどのように活用するのは勿論、社会を脅かす誤情報、偽情報とどう向き合えば良いのかなど、高校生を取り巻く喫緊な話題と高校生が出来ることを取り上げ議論したい。

- テーマ選定

上記展開のなかで見つけた課題の中から次年度のテーマ設定をはかる